

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	臨床検査学分野
学籍番号	17S3038	院生氏名	杉田義弘
通学キャンパス	成田キャンパス		
論文題目	尿中ケト基及びヒドロキシ基を含む化合物の高速液体クロマトグラフ蛍光検出によるがんのスクリーニング検査法の開発		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<審査結果の要旨> 1. 主論文について記載する。 1) 研究の概要を簡単に記載する。 高齢社会におけるがん死亡の上昇は医療における重大な課題であり、本研究では在宅で容易に採取できる尿を資料とし、検査室に多く普及している高速液体クロマトグラフィ装置(HPLC)を用いて大量の試料をスクリーニングできる測定法の開発を試みた。その結果、がん患者尿の代謝産物の中でケト基化合物の成分、特に 2,3-Butanedione が、肝臓がんと大腸がん患者尿で出現していることを確認し、がんスクリーニング検査法としての可能性を示した。 2) 千葉大学病院検査部に提出されたがん患者尿を試料として解析した。研究計画は、千葉大学大学院医学研究院倫理審査委員会(承認番号 3472)、及び、国際医療福祉大学倫理審査委員会(承認番号 18-Io-132)で承認されており倫理的には問題ないと判断された。健常者尿は、健康診断で採取した尿を受診者および会社(株式会社サンリツ)の了解を得て使用している。得られた結果については、先行研究のデータをもとに適切な論理で、がん疾患における尿中ケト基化合物、2,3-Butanedione の意義について考察し、がんの早期発見の有用なマーカーとしての可能性を示している。その、論証、論文形式は適切であり、十分に科学的と評価できる。 3) 本研究の新規性は、侵襲がほとんどない尿を検体とし、汎用されている HPLC 装置を用いて安価に検出するバイオマーカーを開発した点にあり、高齢社会におけるがん医療に貢献する研究として高く評価できる。 2. 審査経過において、英文で既に出版されている副論文との相違、統計処理法について指摘があり、論文の修正を求めたところ、適切に修正された。 3. 口頭試問において審査員からそれぞれ質問があり、適切に応答した。 4. 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(臨床検査学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。			
論文審査担当者	主 査	梅村 創	
	副 査	佐藤 正一	
	副 査	鈴木 元	